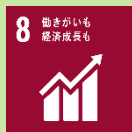


労働政策の合理性及び影響に関する実証分析

研究分野: 労働経済学、政策分析、応用ミクロ経済学、計量経済学

キーワード: 労働政策、国際比較、政策評価、女性雇用、働き方改革

貢献できるSDGsの区分:



地域創造学部 実践経済学科 講師 虞 尤楠

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/yu-youn/>

研究概要

労働経済学分野の様々な政策に注目し、それらの政策の合理性及び影響について計量分析の手法を用いた実証研究を行っている。主な研究の概要は以下のとおりである。

- ① 日本の最低賃金の決定要因に関する実証研究である。地域所得格差を縮小し、地域労働市場の人手不足問題を解決するために、都道府県レベルのパネルデータを用いて、日本の最低賃金決定の合理性に関する実証分析を行っている。
- ② 日本の労働政策の国際比較に関する実証研究である。労働政策が関連する法律の主旨に即した合理的なものであるかを検討するため、日本と中国の最低賃金及び労働政策、社会保障制度に注目し、国際比較研究を行っている。
- ③ 日本の労働政策が労働者生活・労働市場・企業業績への影響に関する実証研究である。最低賃金制度・育児休業制度などの労働経済学に関わる政策が労働者の主観的な厚生、特定の職業で働く労働者の賃金、企業業績への影響について、個票・企業レベル・都道府県レベルのパネルデータをもとに分析を行っている。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ① 複数種類のデータをもとに、計量分析の手法を用いて実証研究を行うことで、労働政策・社会保障政策の合理性及び影響を検討する調査研究
- ② 労働政策の国際比較よりさらに働きやすい労働環境の構築及び政策導入の可能性、外国人労働者の受け入れの注意点を検討する研究
- ③ 労働政策の推進に向けて、企業コストの上昇への対応策及び公共部門による政策介入の必要性を論じる研究

外部との連携実績等

特になし